

一般社団法人日本免震構造協会 様



試験運営にIBTを導入し、業務負担もストレスも半減！
「もう元には戻れませんよ」

Before

- 300名～400名を会場に集めて試験運営では右往左往
- 採点処理は、8人～9人で3日掛かり肉体的にも大きな負担に
- 厳格性が高く、「試験の監視」や「試験問題の管理」も大変

After

- 自宅でも受験が可能になり、運営のストレスも減少
- 採点処理は、3人で半日以下まで短縮。業務効率は大幅に向上
- 監督員がリアルタイムで監視するため、『厳格性』も確保

会社概要

日本免震構造協会様は、建物の免震構造等の適正な普及と技術の向上に努めている団体です。『免震構造』というのは、地震動からくる破壊的な力を免震部材によって柔らかく受けとめ、軽減させることができます。近年、この『免震構造』が注目されており、様々な技術開発が行われ、免震構造の建物が次々に実現しています。日本免震構造協会様は、この『免震構造』を広く普及させて国民生活を向上させようと、日々尽力されていらっしゃいます。

プロジェクト概要

導入サービス	資格検定アウトソーシング
業種	専門サービス業
期待される効果	コア業務へ専念、業務効率化働き方改革、ストレス低減

1. 導入前の課題

会場での試験運営が大きな負担。採点は「“めまい”がする」



一般社団法人 日本免震構造協会様では、20年前より『免震部建築施工管理技術者』という資格試験を実施していました。受験者数は毎年300名から400名ぐらいの間で推移。多いときで550名ぐらいほどになったと言います。

館野様：300名から400名ぐらいの規模であっても、試験運営においては苦労の連続でした。

試験の方法としては、東京・渋谷の大きな試験会場に全国から受験者を集め、まず講習を受けてもらいます。

そして講習内容をある程度理解してもらったうえで引き続き試験を行う、というやり方をしていました。

試験となれば席に余裕を持たせる必要がありますが、渋谷でも500名を集められる会場はそんなに多くないうえ、あってもコストがかなり高くなっていました。

また、コストだけでなく『準備』が特に大変でした。

試験に使用する物品を全て会場に持っていかなきゃいけないのが大きな負担でしたし、厳格性が問われますので、試験問題と回答用紙の管理も大変でしたね。

北は北海道、南は沖縄まで、全国から受験者が集まりますので交通機関の乱れなどイレギュラーな対応をどうするのか、というのも上手くルール付けができなくて右往左往していました。

そして、一番大変だったのは『採点』です。

試験が終わった後に8人～9人の委員で、まるまる3日間を掛けて処理をしていました。

採点して家に帰ってベッドに入ったら、“めまい”がしていたぐらいですよ。

2. 取り組み内容

コロナ禍を機に、IBTへ舵取り。重視したのは『厳格性』

限界を感じていたところにコロナ禍がやってきます。“試験会場に受験者を集める”ということができなくなり、必然的に「業務変革」や「デジタル化」を余儀なくされることになりました。

館野様：しばらく中止して、立ち止まって考えようということができない事情もありました。ゼネコンが仕事を受注するにあたって『資格者を配置する』ということが義務として明示されている場合があるんです。ですから、『この資格を取って、来年の春の現場の所長をやる』といった計画をしている人達もいますので、**安易に『今年はやめます』と言える資格ではない**んですよ。

そんななか、事務局のスタッフが「なにか良い方法はないか」とリサーチをしているなかで見つけたのが、パーソルワークスデザインの提供するIBTでした。特にポイントとなったのは、「**監督員がリアルタイムに受験者を監視する**」という『厳格性』の部分です。また、既にある程度の人数規模による実績があったため、その点についても安心でした。

館野様：実績がないと私たちも採用できないので、**それなりの人数規模で実施されていたのは大きかった**です。あと、他社とも比較もしましたが、他社は全部『AIでやっている』ということでした。しかし、本人確認や監視については、やはり『**直接、人間が見てやる**』というのが泥臭いですが**確実に良かった**んですよ。

実装する際にはいくつか苦労もありました。ひとつは“試験問題の表示”です。今回の『免震部建築施工管理技術者』の試験では、それぞれ試験問題に意図を持たせて作っており、紙の状態であれば受験者が試験の意図を把握して答えやすくなっていましたが、PC画面上になった場合に「その意図が伝わるのか」を懸念されていたのです。

館野様：ディスプレイ上で表示された時にどうなのか、というのはすごく気にしましたね。本当に申し訳ないんですけど、『**画面の構成はこうならないか**』『**こうすることはできないか**』ってしつこいぐらいお願いしました。実際、運用をはじめて2年目になるとほぼ解決できました。**この辺りの作り込みをパートナー企業さんとしてやってもらえるかどうか、というのは大きい**ですよ。

3. 導入の効果

採点は“半日以下”で、ストレスは半減。「悪いところが全くない」



IBTを導入して2年が経過すると、格段に変化が出てきたようです。

館野様:僕のストレスはもちろん、事務局のストレスも半減しましたね。さらに、『8人~9人の委員で、まるまる3日間をかけていた』という採点作業は、

今は3人で、半日以下で終わらせることができています。これは業務効率としてとても大きいですよ。

採点業務については、やはり「記述問題の採点」がかなり短縮されたようです。以前は受験者が書いた文字を解読するのに時間を要していましたが、画面に文字入力をしてもらうことで判読の時間が激減したのです。

そして、試験前に行っていた「講習」については、日本免震構造協会様が動画を制作して『動画受講』という形式に切り替えていました。

館野様：自分の空いてる時間にいつでもどこでもコマ割りで受けられるので、ユーザーにとってもメリットがあると思います。

受講者が一か所に集まることもなくなり、感染対策や移動のコストは大幅に下がります。一方でユーザーの利便性と運営側としての業務効率も上がります。

館野様：悪いところがないですよ。デメリットはゼロではないですけども、あっても小さいものですから、**トータルで考えたら悪いところが全くない。**

逆に「会場での試験実施は、もうやることはないんでしょうか？」と質問してみると、、、

館野様：いえいえ、もう元には戻れませんよ。嫌です。もしどこかの偉い人が『会場でやりなさい』と言ったら、私は降りますね(笑) それくらい、**この免震の資格についてはIBTが合っている。**

ただ、今後の改善点について伺うと、

館野様：監視画面が少し見にくいので、もう少し分かりやすくなるといいかな。**使いながら進化させていくものですよ。**

今回のような建設業界×IBTという組み合わせはこれからもっと広がると思う。建設業界には資格試験が多いけど、成功しているIBTの事例がまだ多くない。建設業界におけるIBTの市場は拡大するから、パーソルワークスデザインさんには頑張ってもらわないとね。

パーソルワークスデザイン株式会社 プロジェクト担当者のコメント



日本免震構造協会様と同様に、IBT試験導入の際にどのお客様も一番気にされるのは、試験の『厳格性』の担保です。我々は、“人の目によるリアルタイム監視”で、そのお悩みにお応えしています。AIではなく“人”が対応することは、受験者の心理的な抑止効果が期待でき、さらには、柔軟性と即時性を持たせることができるため、『厳格性』を担保する有効な手段と考えています。今回のインタビューを通して、お褒めのお言葉だけでなく、これらに向けての貴重なご意見も頂くことができ、大変うれしく思います。今後もお客様のお悩みに寄り添い、IBTサービスをより良いサービスとしていけるように進化し続けてまいります。

パーソルワークスデザイン株式会社

本社 | 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-18 池袋WESTビル
電話 | 03-6907-4481 (受付時間 平日 9:00~18:00)

会社ホームページは
こちらから

